

「せんせえ、今日も来てるさあ」。

診察時間が始まる前から聞き慣れた声が待合室から聞こえてきます。(ここで使われる「来てるさあ」は「自分が診療所に来た」ということ)。昨日も受診したらばあちゃんです。

声の調子からすると急変があった様子ではありません。診察室で話をうかがうと「便秘の薬をもらい忘れたさあ」と言われ、ホッとしました。

### 会話から情報

診察室内では患者さんから体調についてお聞きしますが、それ以外のことでいろいろな話を聞くことができます。

「今日は拝みの日だったが行くのを忘れた」や「太陽が熱く



全国リーエッセー

沖縄県

# 茶飲み話生かし「人を診る」

て外に出るのも大変」とか「だんなもひざが痛いつていうのに診療所に来てない? 私が行け

ない会話の中から「今日は島の行事があるから患者さんが少ないのだ」とか、「機会を見つ

て島民に熱中症の講話をしよ」とか、「今度、畑で会ったらあのおじいちゃんにひざの具合を聞いてみよう」などと思いは駆けめぐります。

そのような地域のネットワークがあることで病気を早期に見し、情報を受けて早めに治療ができることを離島に来て初めて知りました。

22期生 1999年卒

かみやま よしゆき  
神山 佳之



隣家から見た診療所および周囲の風景。診療所の窓からは青い海が見られ、疲れを癒やしてくれる

## 沖縄県阿嘉診療所

【私の勤務地】座間味村は沖縄本島的那覇市から西へ約40キロ離れたところに位置し、有人島である座間味島、阿嘉島、慶留間島を含め、大小20余りの島々で構成される。1961年に医師免許を持たない医師(医介補)が公民館で医療業務を開始、同年7月に阿嘉診療所が開設された。

またあるおはあちゃんが、そういえば、ばあちゃんが足が痛くて動けないって言ってたよ」と言うのを聞けば、愛車のスクーターを駆って往診に出かけ、重症でなかったことに安心します。

このような場面もありました。庭の草刈りをしていたおはあちゃんが倒れているのを隣人が発見し、診療所に連絡がありました。台風一過の蒸し暑い時期でしたので、脱水による熱中症と判断。ヘリコプターでの急患搬送となりましたが、入院先の病院での経過も順調だと聞きました。

研修医時代は忙しい研修病院でチーム内の一人の医師として、研修を受けてきました。そのころは「病気を治す」ことだけに視点がいき、病気になった背景や、退院後の生活など、深く考える余裕がありませんでした。離島に来て初めて、「病気ではなく、人を診る」という意味が分かった気がします。

さて、島民のみなさん、今日どのような話をしてくれるのかな?

### 助け合い根付き

沖縄の方言に「ゆいまーる」

(次回予定は宮城県)